

平成22年度 健康政策医学サマーセミナー

平成22年8月18日

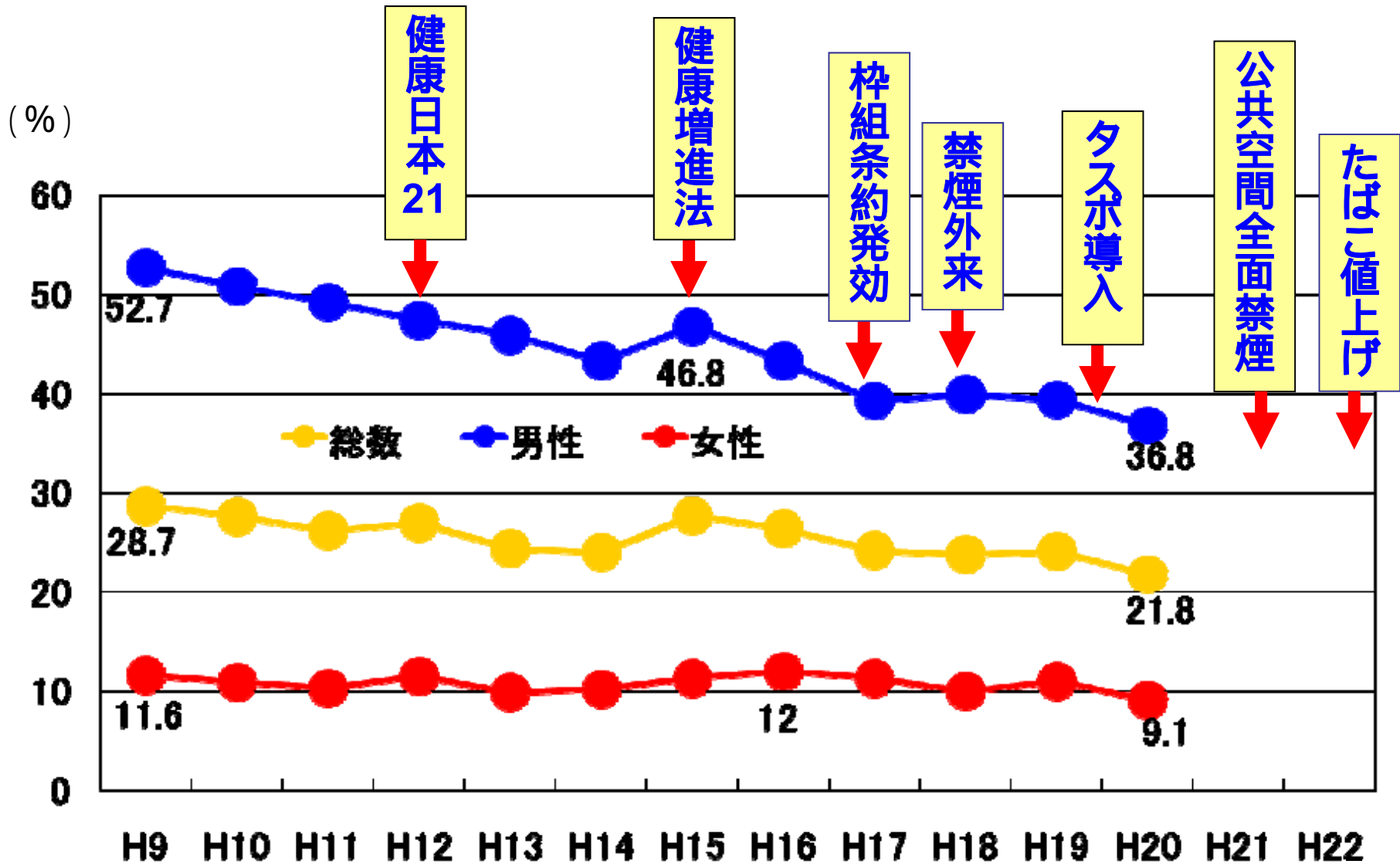
今井まちなみ交流センター華薨講堂

# 家庭内に広がる喫煙の世代間連鎖

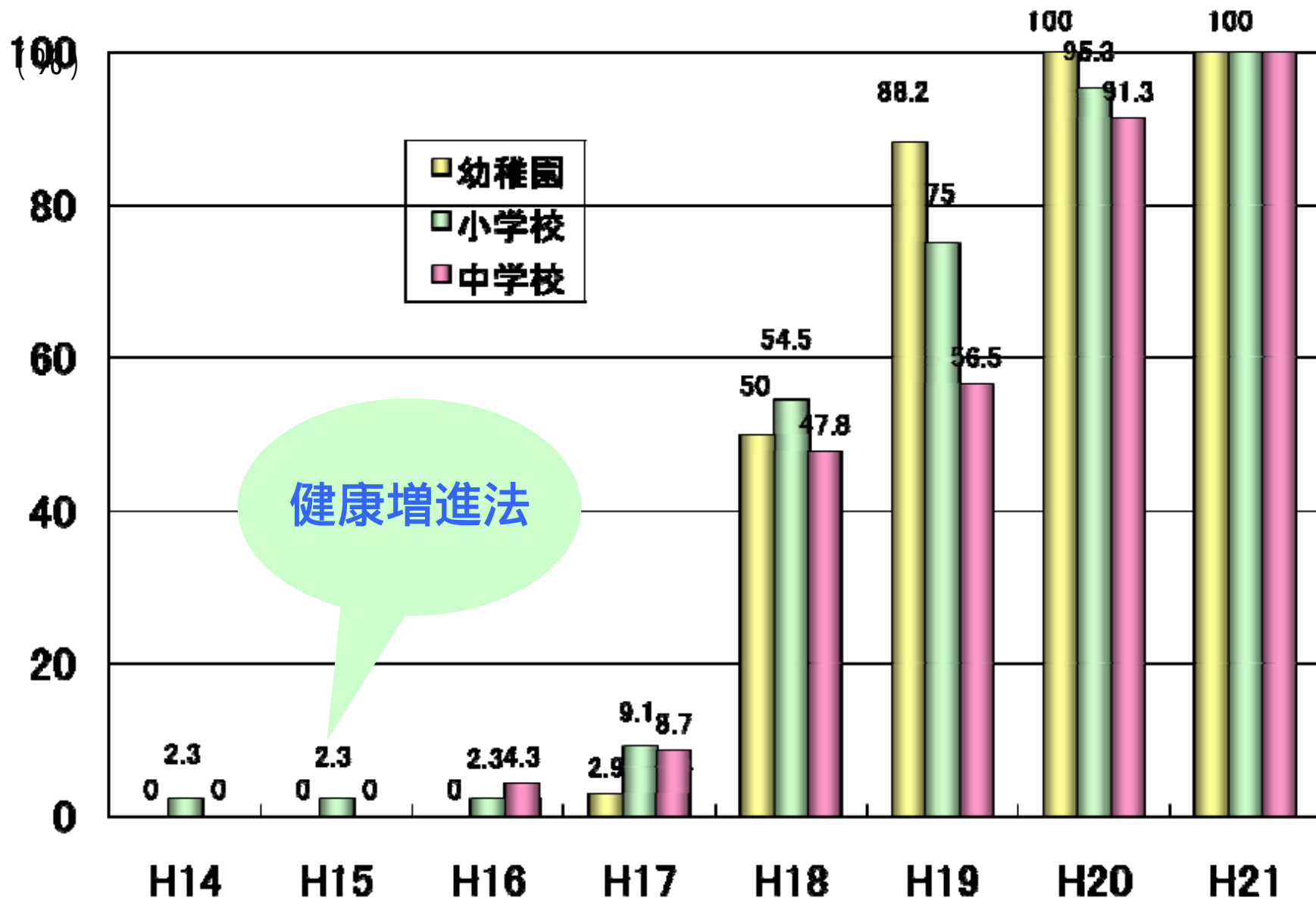
奈良県郡山保健所 山田全啓

# 全国喫煙率推移

(H14年まで国民栄養調査、H15年以降は国民健康・栄養調査)



# 管内学校等敷地内禁煙実施率の推移



# 子どもの生活習慣病予防調査

(平成16年度調査)

## 1. 調査対象

中学校20校: 4,776人

高校15校: 5,047人

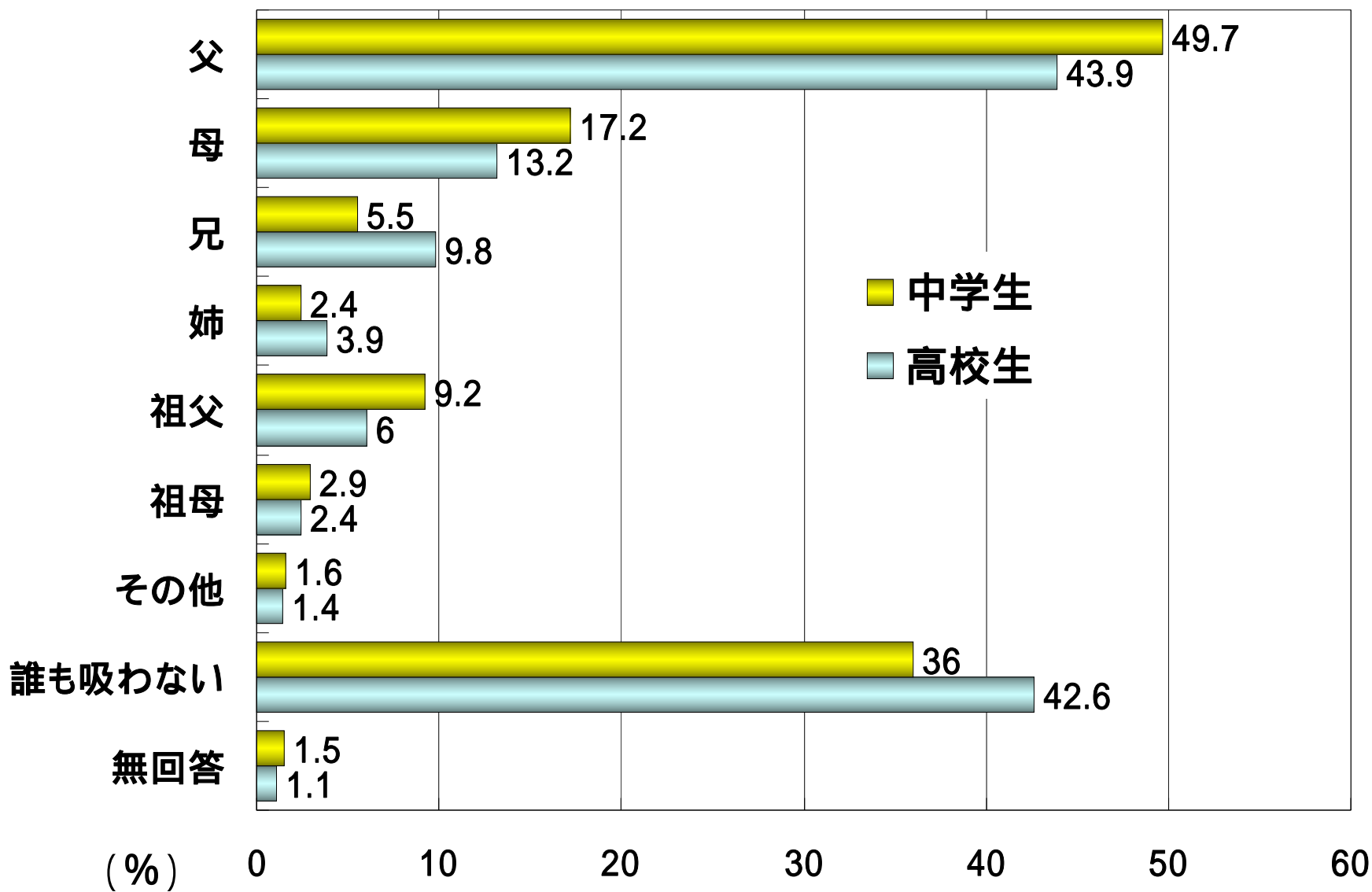
## 2. 調査項目

児童生徒の生活習慣及び身体状況、たばこ、飲酒等の計58項目について調査した。

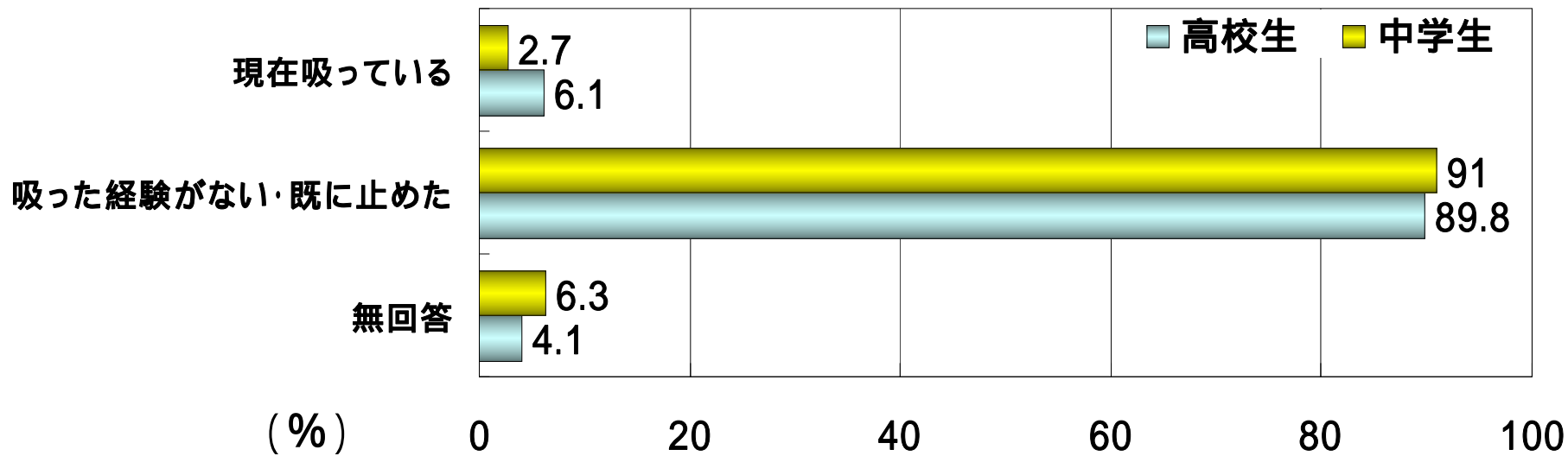
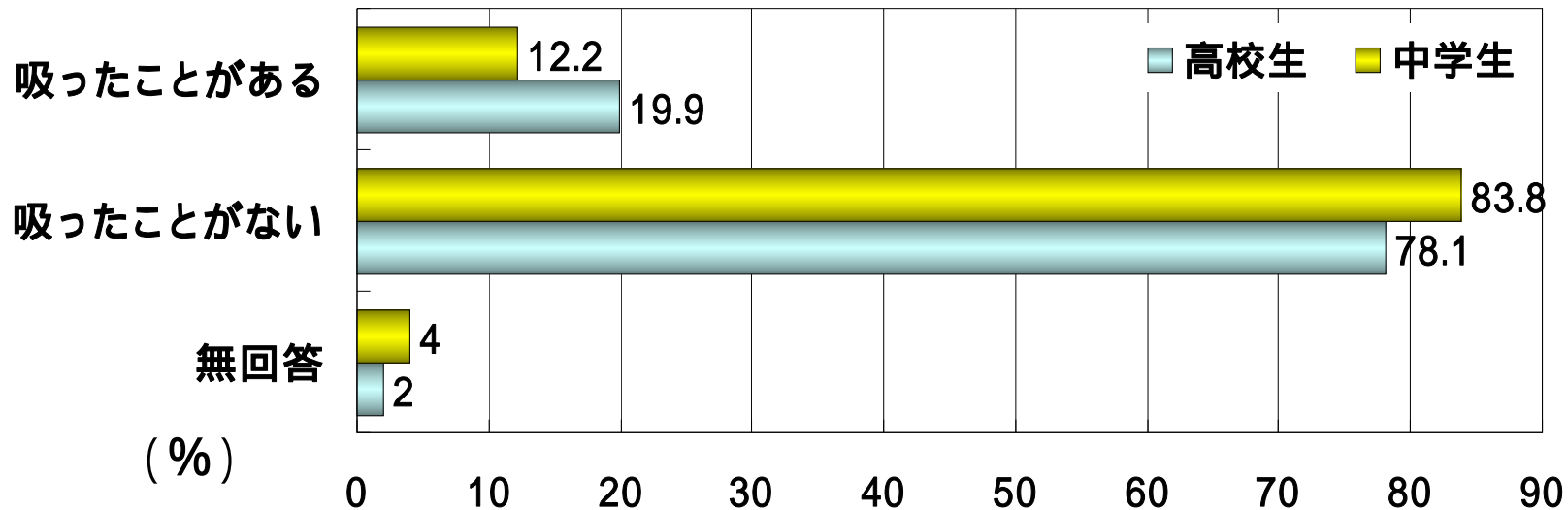
## 3. 回収率

中学校: 93.2%、高校: 94.6%

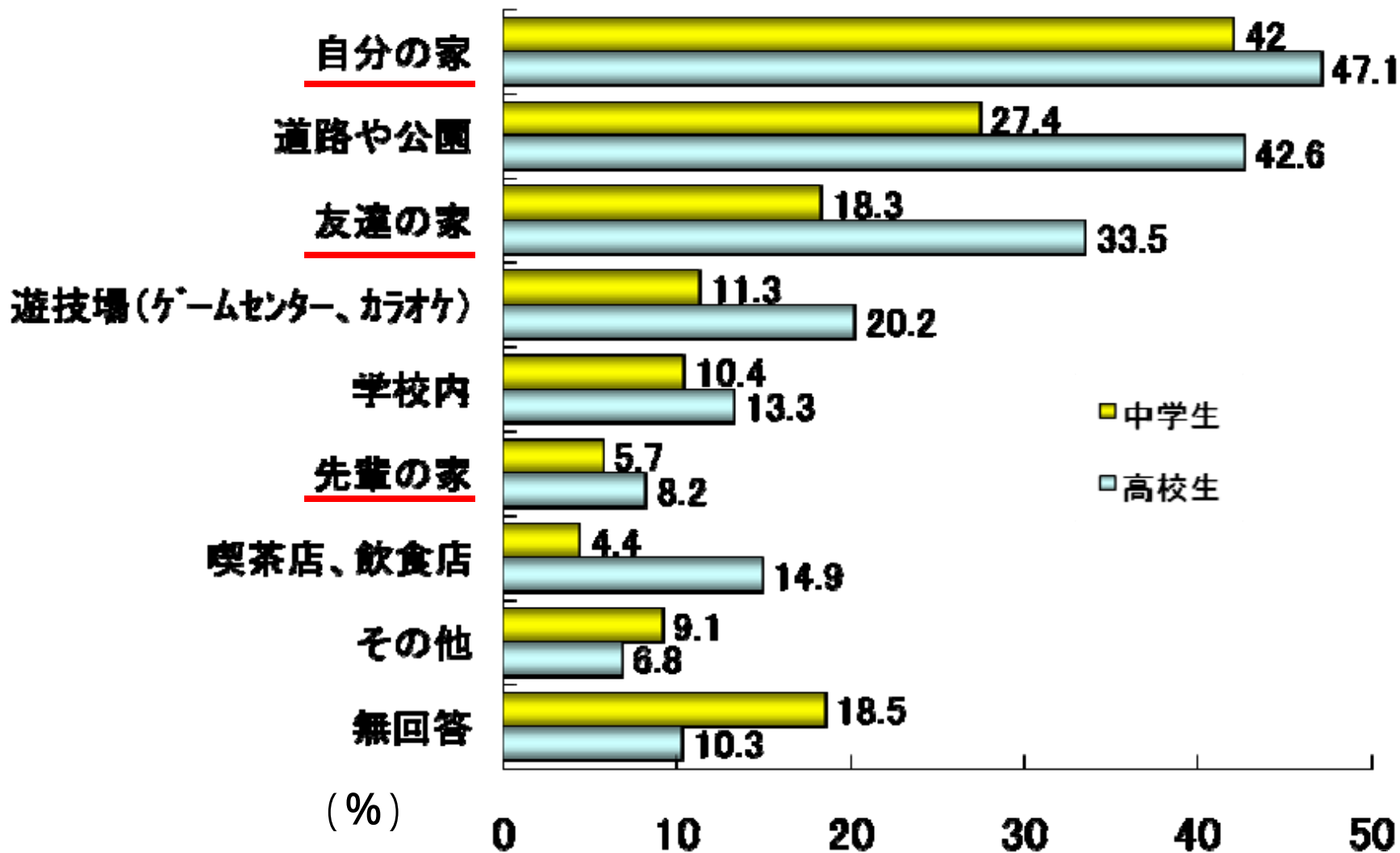
# 家族のなかでたばこを吸う人がいますか



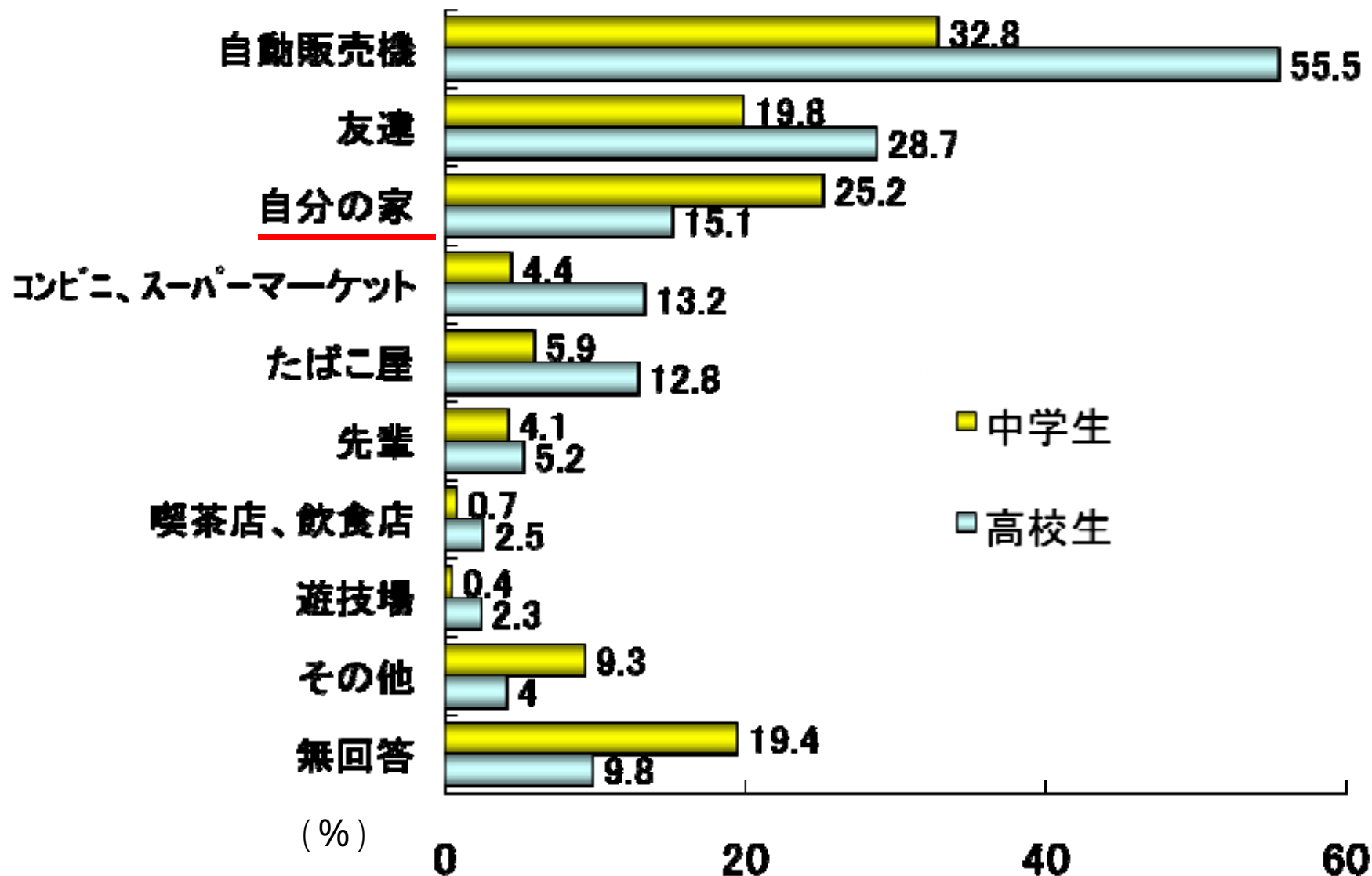
# 中・高生の喫煙状況



# たばこを吸っている(吸っていた)場所はどこですか (重複回答可)

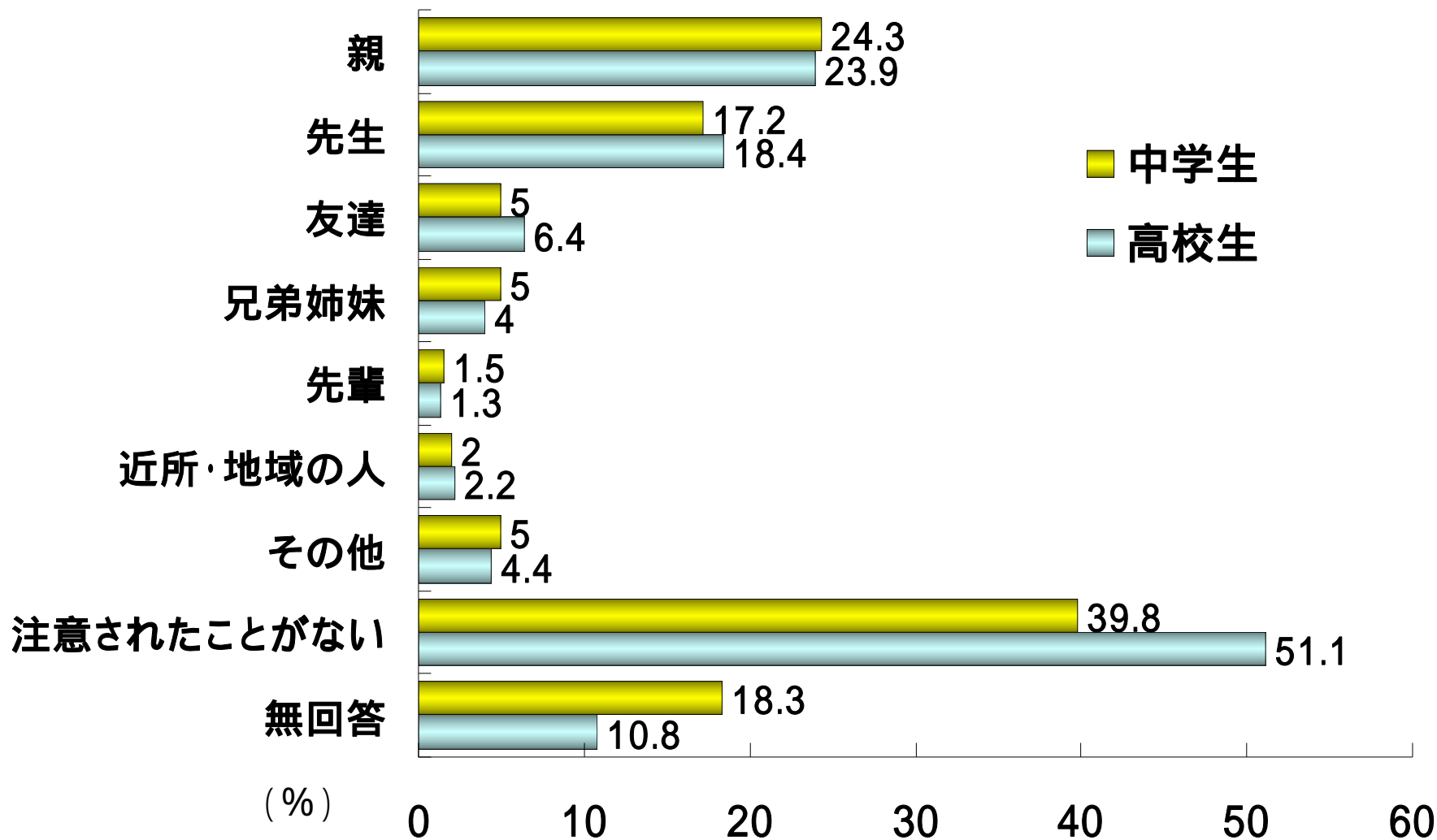


# あなたはたばこをどこから手にいれますか (重複回答可)

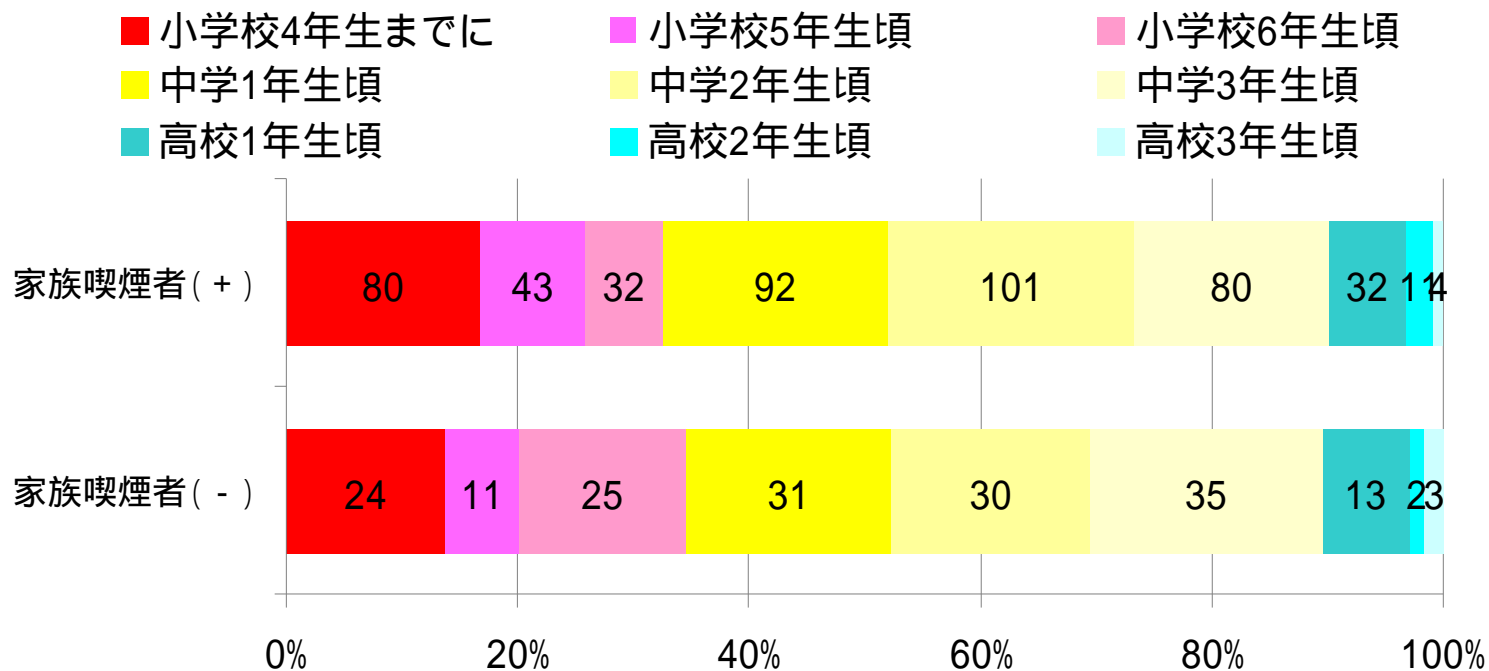




あなたは、これまでたばこを吸ったことで誰かに注意や指導を受けたことがありますか(重複回答可)

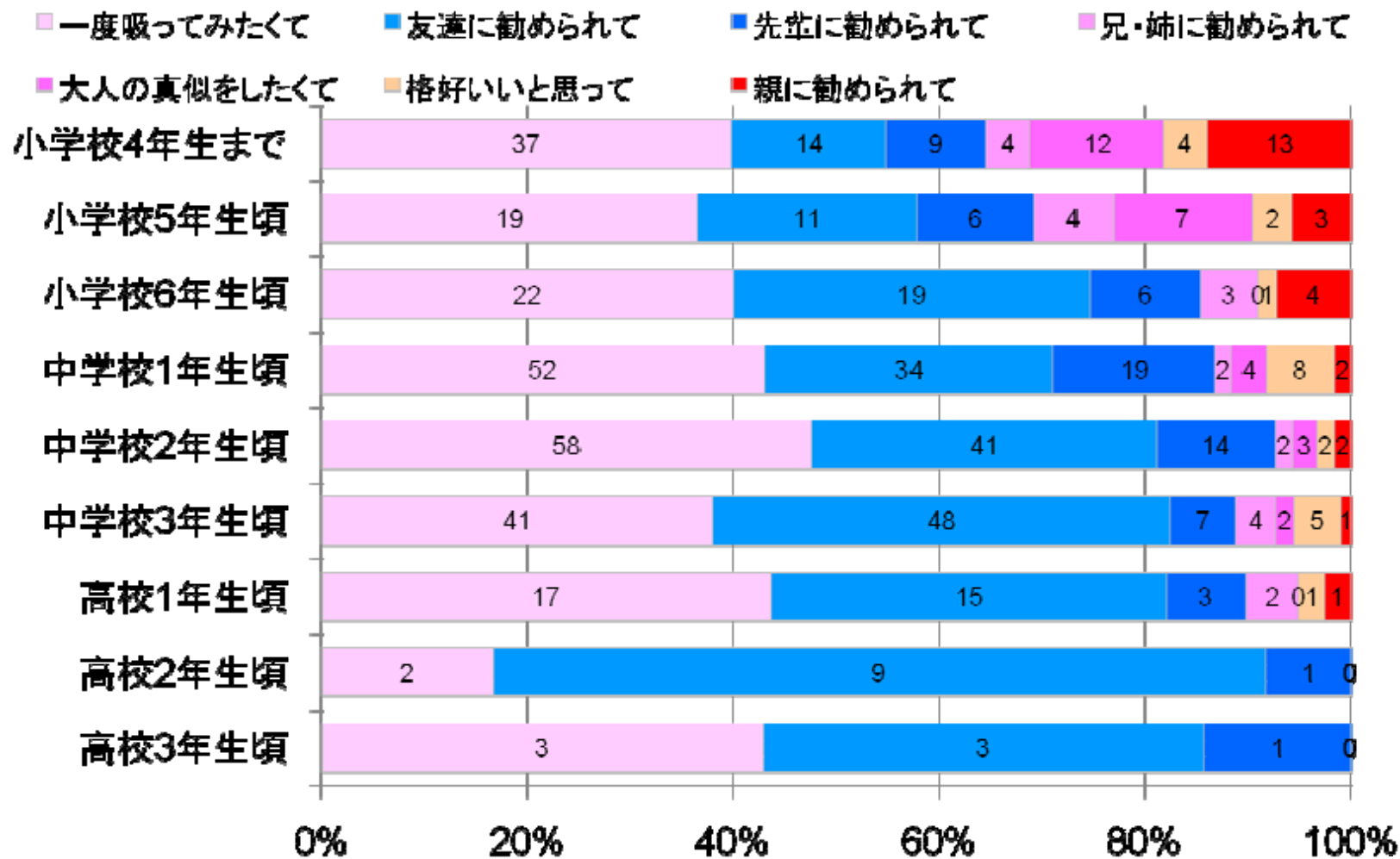


# 家族喫煙と喫煙開始時期(高校生・男子)

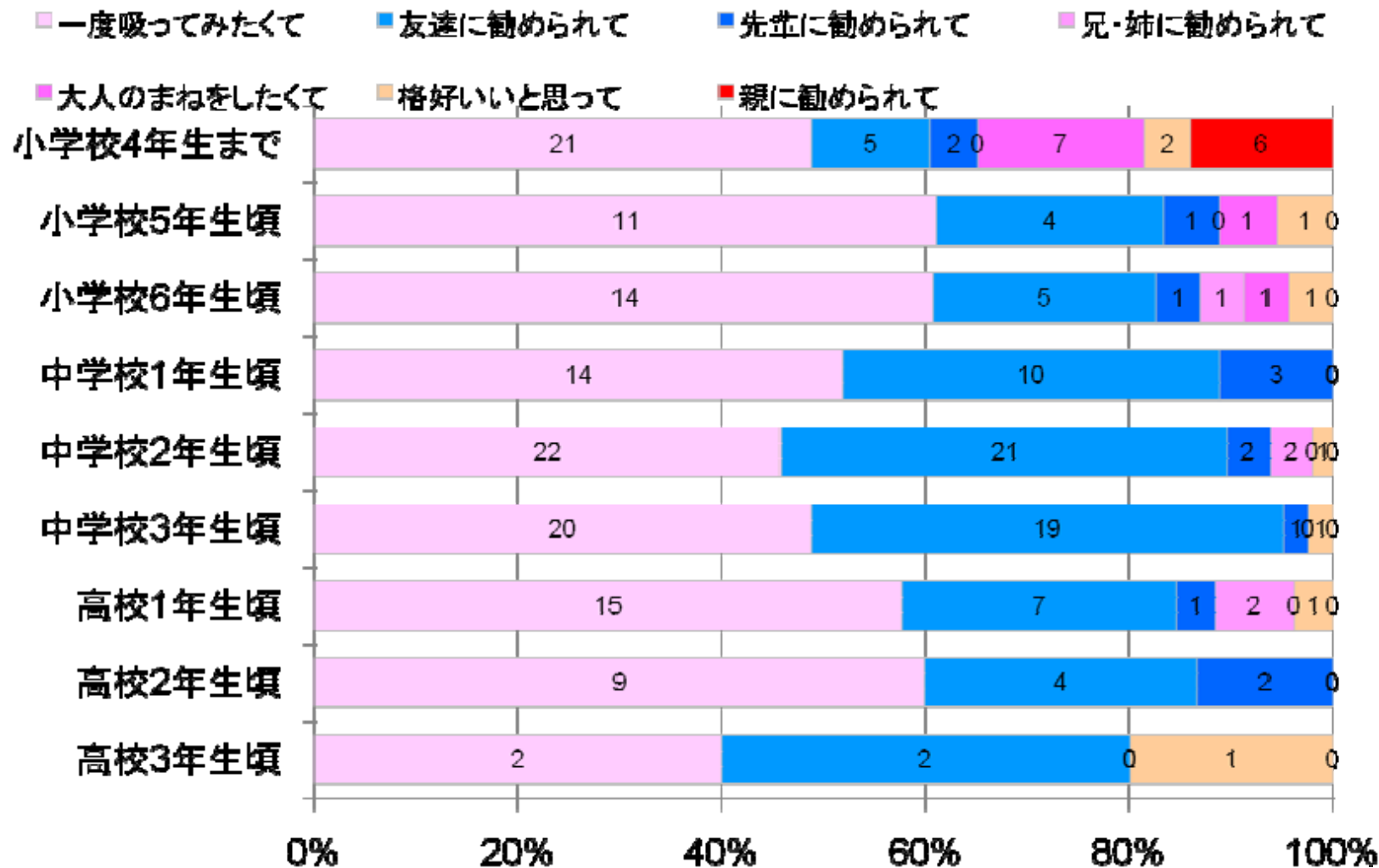


男子生徒の小学校4年生までの喫煙経験について、家族喫煙者がいる生徒の、いない生徒に対するオッズ比は、**1.9**( $p=0.005$ )であった。小学校5年生まででは、**1.4**( $p=0.148$ )であった。

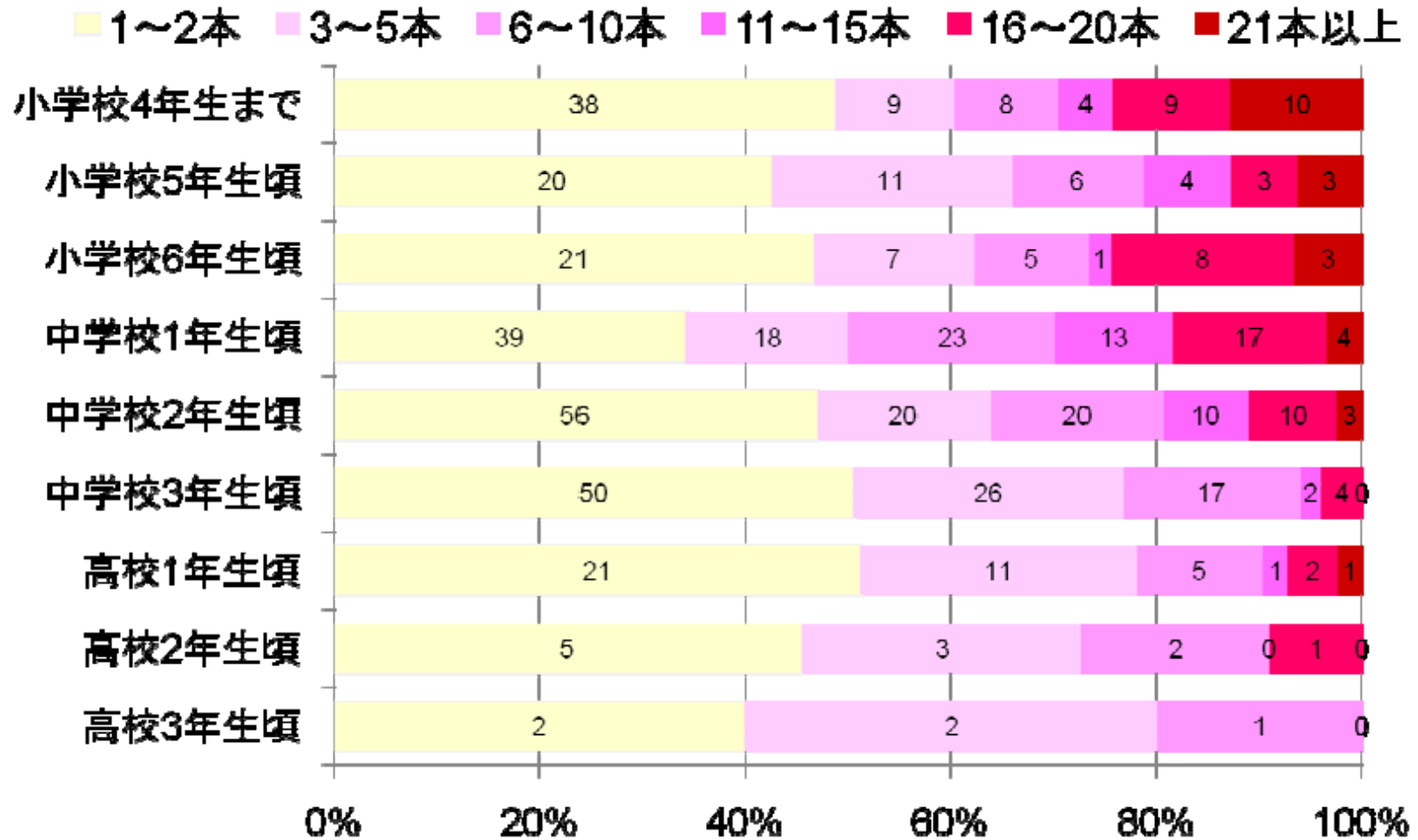
# 喫煙開始時期とその動機(高校生・男子)



# 喫煙開始時期とその動機(高校生・女子)

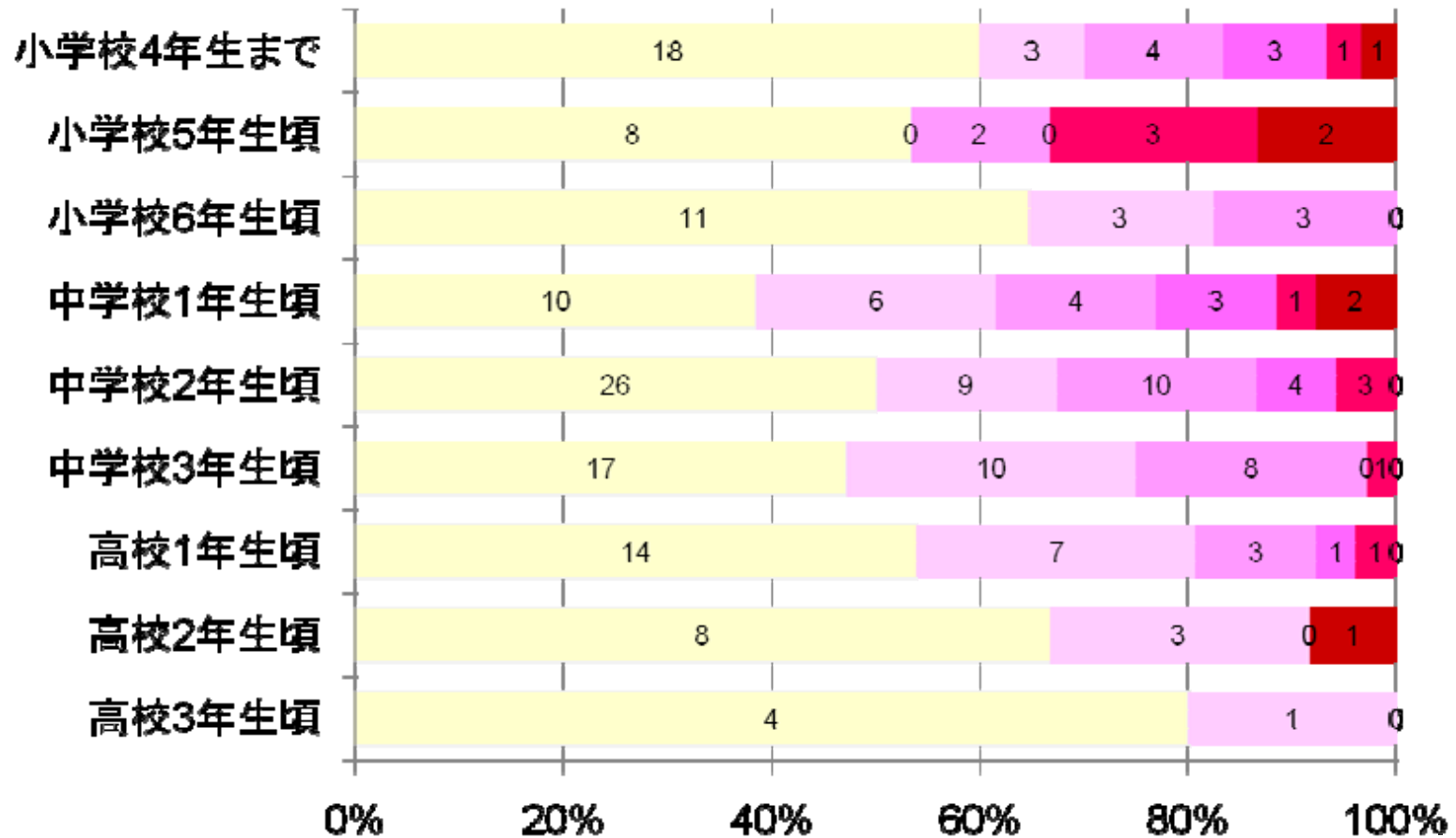


# 喫煙開始時期と喫煙本数(高校生・男子)



# 喫煙開始時期と喫煙本数(高校生・女子)

■ 1~2本 
 ■ 3~5本 
 ■ 6~10本 
 ■ 11~15本 
 ■ 16~20本 
 ■ 21本以上



# こどもの喫煙に影響を与える家庭環境要因 ( n=4,774 )

家庭環境要因		オッズ比	
		男子	女子
家族に喫煙者がいるほど、こどもの喫煙経験が高くなる		<b>2.3 **</b>	<b>2.9 **</b>
	父親が喫煙しているほど、こどもの喫煙経験が高くなる	<b>1.5 **</b>	<b>1.7 **</b>
	母親が喫煙しているほど、こどもの喫煙経験が高くなる	<b>3.4 **</b>	<b>2.9 **</b>
	両親が喫煙しているほど、こどもの喫煙経験が高くなる	<b>3.8 **</b>	
家族に喫煙者がいるほど	こどもの”一度吸ってみたくて”という動機が高くなる	<b>1.2</b>	<b>1.7</b>
	男子の小学校5年までの喫煙経験が高くなる	<b>1.4</b>	—
	こどもの常習喫煙者が多くなる	<b>2.5 **</b>	<b>2.4</b>
保護者がこどもの喫煙を注意しているほど、 たばこを吸い続けるこどもが少なくなる		<b>0.2 **</b>	<b>0.2 **</b>
保護者が喫煙しているほど、こどもの喫煙を注意しない傾向がある		<b>3.2 **</b>	<b>1.8</b>

**\*\* : p < 0.001**

**\* : P < 0.05**

# 家庭内で広がる喫煙の世代間連鎖(1)

—オッズ比からみた影響の程度—

親の喫煙

父親喫煙(2,061人)

両親喫煙(392人)

母親喫煙(618人)

1.5

1.7

3.8

3.4

2.9

喫煙経験高校生(計947人)

喫煙経験男子(655人)

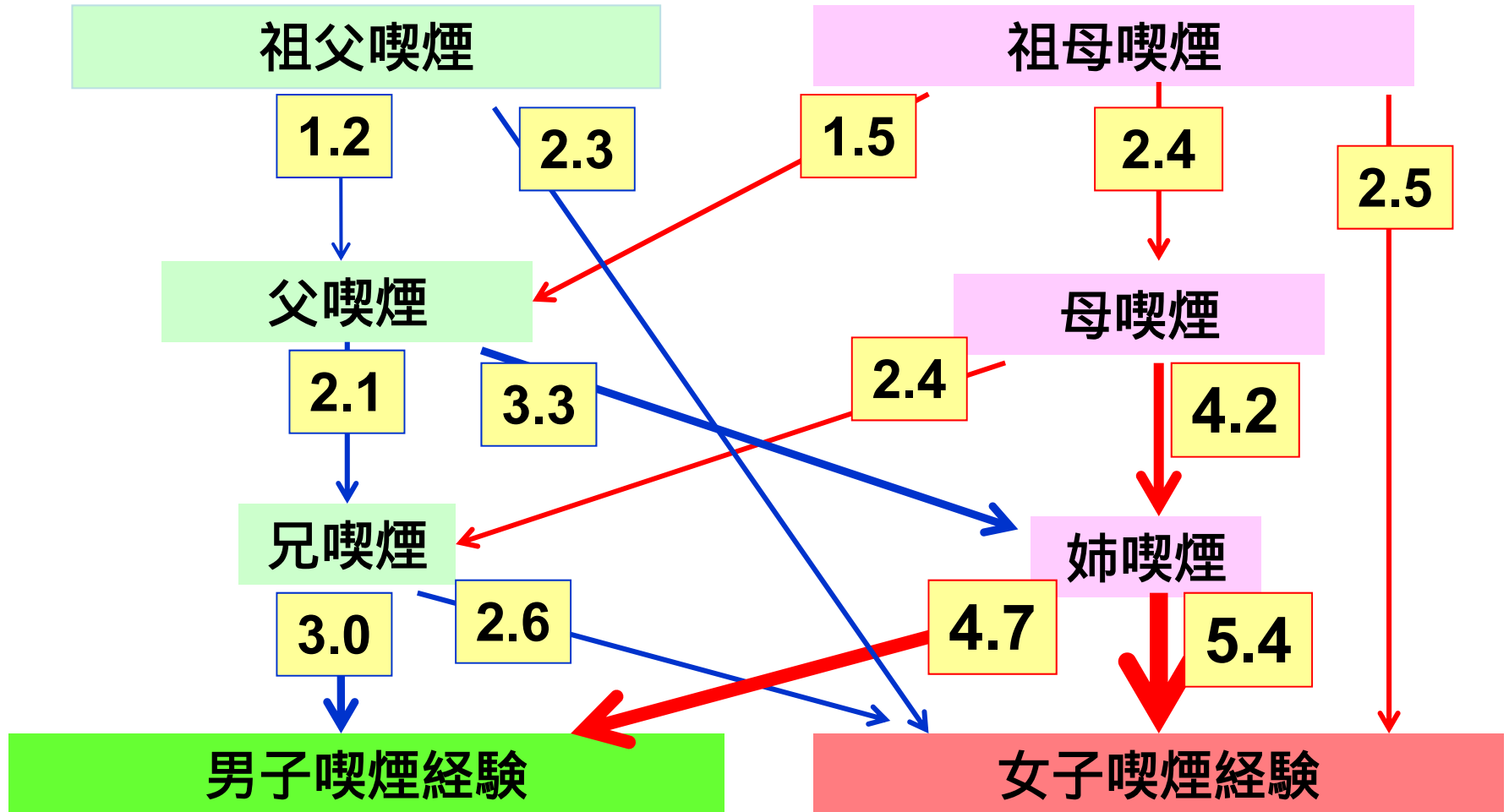
喫煙経験女子(292人)

喫煙経験  
子供の



# 家庭内で広がる喫煙の世代間連鎖(2)

—オッズ比からみた影響の程度—



注) 高校生からみた続柄を示す。

# こどもの喫煙と生活習慣との関係

(高校生 n=4,774)

生活習慣		オッズ比	
		男子	女子
喫煙経験のあるこどもほど	飲酒経験も高くなる	7.7 **	7.2 **
	朝食の欠食が高くなる	3.3 **	3.2 **
	夕食の孤食が高くなる	1.2	1.6 *
	夕食に外食やコンビニの利用が高くなる	1.7 *	4.8 **
	昼間の眠気を多く感じている	1.7 **	1.2
	だるさや集中力低下などの不定愁訴が高くなる	2.1 **	2.0 **
	イライラ感が高くなる	1.4 *	2.1 **

\*\* :  $p < 0.001$

\* :  $P < 0.05$

ま と め



# 1. 高校生の6.1%は喫煙

高校生の喫煙状況は、**19.9%**がたばこを吸った経験があり、**6.1%**が現在も吸っていて、“吸わないとイライラする”と答えた生徒は**3.5%**で、依存症と推定された。**喫煙開始年齢が若いほど、喫煙本数は増加した。**

## 2. 喫煙の半数は、自分の家

家庭の喫煙状況を見ると、**57.4%**の家庭で誰かが喫煙しており、父親の喫煙は**42.5%**と最も多く、次いで母親は**13.2%**であった。こどもの喫煙場所の**47.1%**が“**自分の家**”と最も多かった。

たばこの入手方法では“**自販機**”、“**友達の家**”に次いで“**自分の家**”であったが、年齢が下がるほど、“**自分の家**”が増加した。こどもの喫煙を注意している保護者は、**25.1%**と少なかった。

### 3. 母親が喫煙していると、 男子の喫煙経験が3.4倍

家族に喫煙者がいるほど、こどもの喫煙経験が男子で**2.3倍**、女子で**2.9倍**と有意に高かった。父親が喫煙していると、男子で**1.5倍**、女子で**1.7倍**、母親が喫煙していると、男子で**3.4倍**、女子で**2.9倍**と、母親の影響が大きかった。しかし、父親の喫煙率は母親の**3.2倍**もあることから、**全体として父親の影響が大きい**。今後は、**母親の喫煙率の推移も見守る必要がある**。

## 4. 家庭に喫煙者がいると、小学校までの男子の喫煙動機に影響

喫煙している高校生の**24.1%**は、小学校5年生までに吸い始めていた。

男子の喫煙動機をみると、小学校5年生までに喫煙を開始した子どもでは、“**親に勧められて**”、“**兄・姉に勧められて**”、“**大人の真似をしたくて**”などが多く、家庭の影響が色濃く表れた。

女子では、小学校4年生までの開始では、同様の傾向はみられるものの、男子ほど家庭の影響は強くなく、**中学校1年生以降の友人の影響**がより強く伺えた。たばこを吸った動機で“**一度吸ってみたい**”が40%と最も多かった。

家族に喫煙者がいるほど、この“なんとなく吸ってみるこども”も増えるようで、男子で1.2倍、女子で1.7倍と高かった。



## 5 . 保護者がこどもの喫煙を注意することは、効果的！

保護者がこどもの喫煙を注意していると、たばこを吸い続けようとするこどもは有意に低くなっており、男女とも0.2倍であった。一方、喫煙している保護者は、こどもの喫煙動機に悪影響を及ぼしているのみならず、こどもがたばこを吸うことを注意しない傾向があり、このことがこどもの喫煙を二重に助長していた。その結果、保護者がたばこを吸っていると、たばこを吸い続けようとするこどもが、男子で3.5倍、女子で4.7倍と有意に高くなった。余談ですが、教師の生徒指導や注意は、残念ながらあまり有効でなかった。



## 6 . 喫煙経験のあるこどもは、飲酒経験も7.7倍！

こどもの喫煙は、家庭の生活習慣やこどもの体調と密接に関連していた。生活習慣との関係を見ると、喫煙経験があるほど、**飲酒経験**もより多くなっており、男子で7.7倍、女子で7.2倍であった。その他、喫煙経験があるこどもほど、**朝食の欠食**や**夕食の孤食**が多く、**夕食に外食**したり、**コンビニを利用**するこどもが多くみられ、悪い嗜好や習慣が同じ家庭やこどもに集積していた。また、喫煙経験があると、**昼間の眠気**や**だるさ**、**集中力の低下**、**イライラ感**といった体調不良をより多く感じていた。このことから、喫煙習慣は、こどもを取り巻く様々な**家庭生活**や**こどもの体調**とも密接に関連していた。

## 7. 小学校低学年までに家庭の無煙環境を！ (世代間連鎖を絶つ)

こどもの喫煙行動に、家庭環境が大きな影響を及ぼすことから、保護者を含めたより早期からの喫煙防止教育が求められる。とりわけ、男子生徒では小学校低学年からの喫煙動機に既に影響を受けていることから、保護者の禁煙をはじめとした**家庭全体の無煙環境づくり**と、保護者がこどもの喫煙に対して**毅然とした態度**を示し**家庭内世代間連鎖を絶つ**ことが何よりも求められる。

小学校高学年以降は、家庭よりもむしろ友人や先輩の影響を多く受けることから、**学校の無煙環境**がより求められる。

一方、**こどもの喫煙行動は、飲酒行動や食習慣、不定愁訴等とも密接に関連しており、こどもの生活習慣全般に目を向けたアプローチ**と、保護者も含めた**“家庭”という単位での生活習慣改善**に、改めて公衆衛生関係者は注目する必要がある。



ご静聴ありがとうございました